

東京フィルの

午後の コンサート。

2022

9

〈コバケンの名曲アラカルト〉

第15回 渋谷の午後のコンサート

2022年 **9月2日(金)**

14:00開演

Bunkamura オーチャードホール

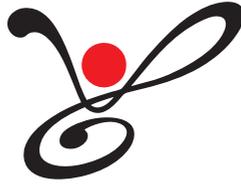
第94回 休日の午後のコンサート

2022年 **9月4日(日)**

14:00開演

東京オペラシティ コンサートホール

chie / c.



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
オーケストラの響きが満ちる場所でのかけがえのないひとときを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・スポンサー

SONY

Rakuten 25
YEARS

マルハン

LOTTE

ゆうちょ銀行
BANK

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第15回

渋谷の午後のコンサート

9.2(金) 14:00開演 Bunkamura オーチャードホール

Fri. Sep. 2, 2022, 14:00 at Bunkamura Orchard Hall

第94回

休日の午後のコンサート

9.4(日) 14:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

Sun. Sep. 4, 2022, 14:00 at Tokyo Opera City Concert Hall



〈コバケンの名曲アラカルト〉 〈Kobaken's Masterpiece a La Carte〉

指揮とお話 小林研一郎 Ken-ichiro Kobayashi, conductor & speaker

ヴァイオリン 荒井里桜* Rio Arai, violin

コンサートマスター 三浦章宏 Akihiro Miura, concertmaster

グリンカ：歌劇『ルスランとリュドミラ』序曲 (約6分)

Glinka: Overture from opera "Ruslan and Lyudmila" (ca. 6 min)

メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲* (約28分)

Mendelssohn: Violin Concerto (ca. 28 min)

— 休憩 intermission —

ドヴォルザーク：スラブ舞曲第10番 (約6分)

Dvořák: Slavonic Dance No. 10 (ca. 6 min)

スメタナ：連作交響詩『わが祖国』より「シャルカ」「モルダウ」(約25分)

Smetana: Šárka—Vltava (Moldau) from "Má Vlast" (ca. 25 min)

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）| 独立行政法人 日本芸術文化振興会

協力：朝日新聞社、Bunkamura (9/2)

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

Subsided by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan | Japan Arts Council

In Association with The Asahi Shimbun Company, Bunkamura (Sep. 2)



※演奏中や曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。

※開演間際の入場、再入場・途中入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なるお席への着席をお願いすることがございます。

※演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。

※終演後、ロビーの混雑を避けるため「時差退場」のお願いをしております。ご協力をお願いいたします。

- Entering and exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- If you enter or reenter just before or in the middle of the concert, we may escort you to a seat different from the one you were originally assigned.
- Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- In order to avoid crowding when exiting the hall, we ask that you exit the hall by staggered times in cooperation with guidance that staff will provide at the venue at the end of the concert.

出演者プロフィール

指揮とお話 **小林研一郎**

Ken-ichiro Kobayashi, conductor & speaker

“炎のコバケン”の愛称で親しまれる日本を代表する指揮者。これまでにハンガリー国立フィル、チェコ・フィル、アーネム・フィル、ロイヤル・コンサートヘボウ管、フランス国立放送フィル、ローマ・サンタ・チェチーリア国立管、N響、読響、日本フィル、都響等の名立たるオーケストラと共演を重ね、数多くのポジションを歴任。ハンガリー政府よりハンガリー国大十字功労勲章（同国で最高位）等、国内では恩賜賞・日本芸術院賞等を受賞。社会貢献を目的とした「コバケンとその仲間たちオーケストラ」で活動趣旨に賛同するプロ、アマチュア、学生等のボランティアメンバーと共に全国でチャリティ公演も行っている。CD、DVDはオクタヴィア・レコードより多数リリース。著書に『指揮者のひとりごと』（騎虎書房）等がある。現在、日本フィル桂冠名誉指揮者、ハンガリー国立フィル及び名古屋フィル桂冠指揮者、読売日響特別客演指揮者、群響ミュージック・アドバイザー、九響名誉客演指揮者、東京藝術大学・東京音楽大学・リスト音楽院名誉教授、ローム ミュージック ファンデーション評議員等を務める。

オフィシャル・ホームページ： <http://www.it-japan.co.jp/kobaken/>



©K.Miura

ヴァイオリン **荒井里桜**

Rio Arai, violin

1999年東京都出身。東京藝術大学音楽学部首席卒業。学内にてアカンサス音楽賞及び三菱地所賞受賞、福島賞、安宅賞、宮田亮平奨学金を受賞。東京藝術大学宗次徳二特待奨学生。ローザンヌ高等音楽院卒業。第15回東京音楽コンクール弦楽部門第1位及び聴衆賞。第87回日本音楽コンクールバイオリン部門第1位、併せてレウカディア賞・鷺見賞・黒柳賞を受賞。題名のない音楽会、ラジオやメディアへも多数出演。現在、ジャニーヌ・ヤンセン氏に師事。



©Shigeto Imura

プログラム・ノート

解説=飯尾洋一

民族色豊かな親しみやすいメロディを堪能

本日は「コバケン」の愛称で親しまれる日本を代表する名指揮者、小林研一郎による名曲集をお届けします。「炎のマエストロ」の異名をとるだけに、大ベテランとなった今もその音楽にかける情熱は衰えることがありません。

本日演奏されるグリカ、ドヴォルザーク、スメタナといった中東欧の作曲家たちの名曲は、いずれの作品も親しみやすく、民族色豊かなメロディにあふれています。私たち日本人にとって、初めて聴いたときからどこか親近感を覚える作品が多いのではないのでしょうか。それでいて、くりかえし聴いても飽きることのない味わい深さがあるのが名曲の名曲たるゆえんでしょう。

メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲では、若手の注目株、荒井里桜がソリストを務めます。第15回東京音楽コンクール弦楽部門第1位を獲得し、数多くのオーケストラとも共演を重ねる次代を担う新星です。マエストロとの年齢差はなんと59歳。巨匠と新星の共演にご注目ください。



マエストロ小林が情感豊かな美しいメロディの数々をお届けします

©上野隆文

スピード感にあふれた華々しい序曲

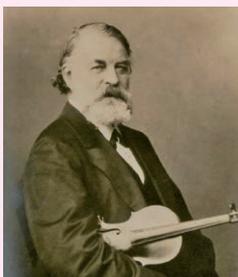
ミハイル・グリンカ (1804-1857) は19世紀ロシア国民楽派の父と呼ばれる作曲家。現在、グリンカの作品でもっともよく演奏されるのが、歌劇『**ルスランとリュドミラ**』序曲でしょう。



オペラの原作となったのはアレクサンドル・プーシキンによる同名の長編詩。当初、グリンカはプーシキン自身に台本を書いてほしいと望んでいましたが、プーシキンが決闘により亡くなってしまったため、代わりに作曲者を含む5人の共作で台本が作られました。物語の舞台はキエフ公国。キエフ大公の娘リュドミラが悪魔によりさらわれますが、求婚者である騎士ルスランが冒険の末にリュドミラの救出に成功し、ふたりは結ばれます。

序曲の冒頭は勢いよく開始されます。オペラ本編のフィナーレで登場するお祝いの音楽が用いられ、明るく楽しげなムードが広がります。続いて現れるのは第2幕のルスランのアリアに由来する、のびやかなメロディ。はつらつとしてスピード感あふれる楽想がくりひろげられ、輝かしい終結部に向かって突き進みます。

ドイツのヴァイオリン協奏曲を代表する傑作



ヨーゼフ・ヨアヒム (1831-1907)。12歳でライプツィヒ音楽院に入学後、メンデルスゾーンに師事している

作曲家、ピアニスト、指揮者として19世紀ドイツの音楽界を牽引したのが**フェリックス・メンデルスゾーン** (1809-1847) です。かつて、歴史的な大ヴァイオリニスト、ヨーゼフ・ヨアヒムは、ドイツの四大ヴァイオリン協奏曲としてベートーヴェン、ブラームス、ブルッフ、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲を挙げ

たうえで、メンデルスゾーンの作品を「もっとも内面的な心の宝石」と賞賛しました。



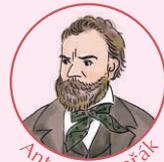
作曲は1844年。ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の音楽監督であったメンデルスゾーンは、同楽団コンサートマスターのフェルディナント・ダーフィットのためにこの**ヴァイオリン協奏曲**を作曲しました。ヴァイオリンの演奏法についてダーフィットに助言を求めながら筆を進めたといえます。

第1楽章 アレグロ・モルト・アパッシオナート 弦楽器とティンパニによる短い伴奏に続いて、すぐに独奏ヴァイオリンが登場し、有名なメロディを奏でます。愁いを帯びながらも伸びやかなこのメロディは、メンデルスゾーンのトレードマークと呼んでもいいかもしれません。通常、楽章の終盤に置かれるカデンツァ(ソリストのみが奏でる技巧的な聴かせどころ)が、この曲では中盤に配置されています。

第2楽章 アンダンテ 前の楽章の終わりからファゴットが音を長く伸ばして、そのまま切れ目なく第2楽章に移ります。独奏ヴァイオリンが夢見のようなメロディを奏で、繊細で気品のある曲想が続きます。物悲しい中間部を経て、ふたたび夢見のようなメロディが帰ってきます。

第3楽章 アレグレット・ノン・トロッポーアレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ 短い序奏に続いて金管楽器による晴れやかなファンファーレが鳴らされます。跳ね回るような独奏ヴァイオリンの主題が続き、華麗な名技で彩られた輝かしい楽想が展開されます。

流麗なメロディが美しい優雅な舞曲



チェコの作曲家**アントニン・ドヴォルザーク**(1841-1904)の出世作となったのがスラヴ舞曲集。1878年、ドヴォルザークは連弾ピアノのための全8曲からなるスラヴ舞曲集第1集を書きあげます。これはブラームスのハンガリー舞曲集のヒットに気を良くした出版社が、同様の民族的な舞曲集を書いてほしいとドヴォルザークに依頼したものです。出版社の狙い通り、曲集は出版社に大きな利益をもたらし、ドヴォルザークの名も一躍知られることになりました。曲はオーケストラ用に編曲され、こちらも人気を呼びます。

1886年、ドヴォルザークはふたたび出版社の要望に応じて、スラヴ舞曲集第2集を書きあげます。第2集もやはり全8曲からなり、まずはピアノ連弾版が、続いてオーケストラ編曲版が出版されました。

本日演奏される**スラヴ舞曲第10番**は、第2集の第2曲。ウクライナの哀悼歌に由来する「ドゥムカ」の呼び名でご存じの方もいらっしゃることでしょう。メランコリックで流麗なメロディが奏でられます。

チェコの自然を描いた記念碑的大作から2曲

連作交響詩『わが祖国』はチェコ国民楽派の創始者、**ベドルジフ・スメタナ** (1824-1884) の代表作。祖国の伝説や歴史、自然を題材に全6曲の交響詩が集められた記念碑的大作です。今日は6曲のなかから、第3曲**「シャルカ」**と第2曲**「モルダウ」**の2曲が演奏されます。



「シャルカ」とはチェコの伝説に登場する女傑の名前。この伝説では男たちと女たちが敵対しています。曲の冒頭が勇ましい曲調なのは、シャルカの気性の激しさゆえ。しばらくすると、行進曲とともに英雄ツチラト率いる男たちの兵がやってきます。シャルカは仲間に自分の体を木に縛り付けさせて、通りかかったツチラトに助けてほしいと懇願します。優美なクラリネットがシャルカを、チェロがツチラトを表現します。ロマンティックな音楽が奏でられ、ツチラ



シャルカがツチラトを畏にはめた場面を描いた絵画 (ヴェンツェスラフ・チェルニー作)

トはシャルカの縄をほどいてあげます。しかし、これは罠。宴の音楽で盛り上がった後、酔った男たちのいびきがファゴットで表されると、シャルカが吹く角笛のホルンを合図に女戦士たちが登場し、男たちを皆殺しにしてしまうのでした。

「モルダウ」とは、チェコの中西部を南北に流れる同国内最長の川の名前で、「モルダウ」はドイツ語で、チェコ語では「ヴルタヴァ」と呼びます）。ふたつの水源から流れ出した川が合流してひとつとなる様子が音楽で描写されます。冒頭、フルートが第一の源流を表現します。続いてクラリネットが表すのは第二の源流。ふたつの源流は重なり合い、小さな川の流れが次第に勢いを増して、川幅を広げます。哀愁を帯びた有名な民謡風主題は、雄大な川の流れを連想させます。川は森を抜けて、人々の暮らす村へ。ホルンを中心とする金管楽器が狩を連想させ、続いて歯切れのよいリズムで結婚式の村人たちの踊りが表されます。夜の訪れとともに曲調は幻想的に変化します。月明かりのもとで踊るのは水の精。やがて民謡風主題が回帰し、急流を経て、クライマックスを築きます。最後は川が視界から遠ざかってゆくかのようなようです。



モルダウ(ヴルタヴァ)川の蛇行による神秘的な地形。チェコの代表的な絶景スポット「マーイの展望」
stock.adobe.com

いいお・よういち(音楽ジャーナリスト)／著書に『クラシック音楽のトリセツ』(SB新書)、『R40のクラシック』(廣済堂新書)、『マンガで教養 やさしいクラシック』監修(朝日新聞出版)、『クラシックBOOK』(三笠書房)他。雑誌やウェブ、コンサート・プログラム等に幅広く執筆する。テレビ朝日「題名のない音楽会」他、放送でも活動。

お客様の質問募集中!

次の午後のコンサート

渋谷

第16回 渋谷の午後のコンサート
11月24日(木) 14:00開演
Bunkamura オーチャードホール

休日

第95回 休日の午後のコンサート
11月27日(日) 14:00開演
東京オペラシティ コンサートホール



©KM Mura

©Yuji Hori

〈クリスタル・クラシック〉

指揮とお話：大井剛史
ソプラノ：森 麻季*

ドヴォルザーク／序曲『謝肉祭』
ドヴォルザーク／わが母の教えたまいし歌*
山田耕祐／赤とんぼ*、この道*
プッチーニ／歌劇『ラ・ボエーム』より
「私が街を歩けば」*
ドヴォルザーク／交響曲第8番 他

大井剛史 1974年生まれ。東京藝術大学指揮科を卒業、同大学院指揮専攻修了。東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者。ほとんどの国内主要オーケストラを指揮し、多彩なレパートリーと誠実な指揮でいずれも高い評価を得ている。現代作品、オペラ、バレエなど幅広い分野で活動中。2008年アントニオ・パドローティ国際指揮者コンクール第2位。

森麻季 東京藝術大学、同大学院、文化庁オペラ研修所修了後、ミラノとミュンヘンに留学。ブラシド・ドミンゴ世界オペラコンクールをはじめ、多数の国際コンクールに上位入賞。透明感のある美声と深い音楽性は各方面から絶賛され、日本を代表するオペラ歌手として常に注目をあびる。ワシントン・アワード、五島記念文化賞、出光音楽賞、ホテルオークラ賞受賞。

平日

第28回 平日の午後のコンサート
10月31日(月) 14:00開演
東京オペラシティ コンサートホール



©KM Mura

©Kunito Watanabe

〈オーケストラ・クライマックス〜ピアノ協奏曲編〜〉

指揮とお話：円光寺雅彦
ピアノ：清塚信也*

チャイコフスキー／ピアノ協奏曲第1番より第1楽章*
ショパン／ピアノ協奏曲第1番より第2楽章*
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番より第3楽章*
ムソルグスキー(ラヴェル編)／組曲『展覧会の絵』 他

円光寺雅彦 桐朋学園大学指揮科卒業。指揮を齋藤秀雄氏、ウィーンでオトマール・スウィトナー氏に師事。東京フィル指揮者、仙台フィル常任指揮者、札幌正指揮者、名古屋フィル正指揮者を歴任。N響、読響、東京フィル、新日本フィル、大阪フィルをはじめほとんどの国内オーケストラ、海外ではプラハ響、BBCウェールズ響、ベルゲン・フィル、ブルターニュ管弦楽団などに客演。テレビ等の番組にも定期的に出演など、幅広い活躍を続けている。

清塚信也 5歳よりクラシックピアノの英才教育を受け、桐朋女子高等学校音楽科(共学)を首席で卒業後、モスクワ音楽院に留学。国内外のコンクールで数々の賞を受賞。人気ドラマ『のだめカンタービレ』で玉木宏演じる「千秋真一」の吹き替え演奏を担当、映画『さよならドビュッシー』で俳優デビュー。映画、舞台、TVドラマ等で劇中音楽を手掛けるなど、作曲家として活動の幅を広げるほか、ピアニストとして次々と新しいフィールドへの挑戦を続け、常に話題と注目を集めている。

2022シーズン 午後のコンサート。 好評開催中!

2022シーズンの「午後のコンサート」好評開催中。ゆったりとした午後のひととぎに、オーケストラの名曲と幅広い世代の音楽家のお話をお届けいたします。次回は2022シーズンを締めくくる3公演。皆様のお越しをお待ちしております。

“大人の渋谷”、Bunkamuraで楽しむ
渋谷の午後のコンサート

Bunkamura オーチャードホール
開演14:00 (開場13:15)

11月24日(木) 第16回 指揮とお話：大井剛史 ソプラノ：森麻季*

クリスタル・クラシック

ドヴォルザーク／序曲『謝肉祭』 わが母の教えたまいし歌*
山田耕筰／赤とんぼ*、この道*
プッチーニ／歌劇『ラ・ボエーム』より「私が街を歩けば」*
ドヴォルザーク／交響曲第8番 ほか



ゆったりと、平日午後に“音楽のご褒美”
平日の午後のコンサート

東京オペラシティ コンサートホール
開演14:00 (開場13:15)

10月31日(月) 第28回 指揮とお話：円光寺雅彦 ピアノ：清塚信也*

オーケストラ・クライマックス～ピアノ協奏曲編～

チャイコフスキー／ピアノ協奏曲第1番より第1楽章*
ショパン／ピアノ協奏曲第1番より第2楽章*
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番より第3楽章*
ムソルグスキー(ラヴェル編)／組曲『展覧会の絵』 ほか



愛され続けて23年目。午後コンの“元祖”
休日の午後のコンサート

東京オペラシティ コンサートホール
開演14:00 (開場13:15)

11月27日(日) 第95回 指揮とお話：大井剛史 ソプラノ：森麻季*

クリスタル・クラシック

ドヴォルザーク／序曲『謝肉祭』 わが母の教えたまいし歌*
山田耕筰／赤とんぼ*、この道*
プッチーニ／歌劇『ラ・ボエーム』より「私が街を歩けば」*
ドヴォルザーク／交響曲第8番 ほか



10～11月公演発売日

最優先・優先

発売中

WEB優先

発売中～9月5日(月) 23:59まで

一般

9月6日(火) 10:00～

料金表	S席	A席	B席	C席
1回券(定価)	¥5,700	¥4,600	¥3,100	¥2,100
(東京フィルフレンズ)	¥5,130	¥4,140	¥2,790	¥1,890

※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます。

photo:円光寺雅彦,大井剛史©K. Miura / 清塚信也©Kunito Watanabe / 森麻季©Yuji Hori

お申込み・お問合せは
東京フィル
チケットサービスまで

03-5353-9522 (10時～18時 / 土日祝休・チケット発売日の土曜日は10時～16時の営業)
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)



アンドレア・バッティストーニが語る 「ダンテを読んで」

9月の定期演奏会(9月15、16、19日)は首席指揮者アンドレア・バッティストーニが登場。今年、日本デビュー10年目を迎えたマエストロがこの秋披露するのは、待望のマーラー「交響曲第5番」と自身のオーケストラ編曲によるリストのピアノ曲『巡礼の年』第2年「イタリア」より“ダンテを読んで”。マエストロの故郷イタリアの文豪ダンテをモチーフにリストが書いたピアノ作品「ダンテを読んで」について、マエストロはどんなイメージを描いたのでしょうか？ プログラムによせてエッセイを執筆いただきました。

リストのピアノ音楽をよく知る者にとって、ハンガリー出身のこの作曲家が、珍しい響き、今までにない音色、オーケストラのプロットを鍵盤楽器で模倣する書法を追い求めたことは有名である。

「ダンテ・ソナタ」とも呼ばれるこの曲に魅せられた私はそれゆえに、管弦楽版を書くにあたって、これらの特徴を明確に示そうと決めた。この編曲は、1950年代ごろまで大いに流行していた器楽編曲の例に連なるものとなる。すなわち目標とするところは、リストや彼の同時代人のスタイルによるオーケストレーションではなく、ラヴェル、レスピーギ、ストコフスキーなどの先例に多くを負っている、大オーケストラのための自由な編曲なのだ。

だがあらゆる編曲は、その性質上、敬意を示す行為であると同時に裏切りでもある。

リストによる速度記号と表現記号は全てそのまま残したが、それは作曲者の意図に敬意を表するためであり、この翻案の出来得るかぎりの完全なヴィジョンを提供するためだ。一方、メトロノームの指示は筆者のものであり、この作品の管弦楽版の演奏により適していると判断した内容になっている。

リストのピアノイズムを交響楽の語彙に編曲するための音色の調合についても同様である。文献学、書かれた記号、そして原典への忠実さを非常に重視している今日の音楽界において、この作品が国語純化論者たちの気分をあまり損なうことなく、過去の偉大なる作曲家への心からの捧げものとして居場所を見つけられるよう願っている。



1858年頃の
フランツ・リスト

リスト自身も、他の作曲家たちの音楽の編曲とパラフレーズを数多く手がけており、その中で、原作品への賛美と自身の解釈を組み合わせ、元の作品の魅力を再創造したという事実は、私を励ましてくれる。私を非常に惹きつけるのはやはり、このピアノの幻想曲の、神秘的で同時に苦しみをたたえた雰囲気であり、リストの天使的かつ悪魔的な音楽を見事に特徴づける、瞑想とヴィルトゥオジティの二項式なのである。リストがこの作品を作曲するにあたり、ダンテ『神曲』の中のどの〈歌〉にインスピレーションを受けたのかは定かではないが、恐ろしい音の波間に地獄の炎を、もしくは、中間部のカンタービレに不幸な恋人たちパオロとフランチェスカの物語を見出すことは難しくない。

冒頭の威嚇的なモットーは、こう歌っているかのようだ。「ここに入る者は、いかなる希望も捨てよ」、これは地獄の門の上に記された銘である。

ここから、オーケストラの深淵へ、もしくは、ダンテが地獄篇で描写した〈環〉の深みへ、蛇のとぐろのように曲がりくねった半音階主義の螺旋を辿る暗い下降が我々を待っている。

リストの特徴は、すでに言及したように、聖と俗の両方を備えていることだ。天使的なコラールに伴うトレモロから、天国の気配を感じるのはたやすいし、今述べた地獄への下降を対位法で彩るカンカンに似た舞曲からは、硫黄の悪臭が感じ取れる。だが私は、悪の深淵へのダンテの旅の終わり、天の高みへ、そしてより良き世界の希望へと至る道行を、高らかな鐘の音と共に告げる

フィナーレがとても気に入っているのだ。

『巡礼の年』とは ハンガリーの作曲家で“ピアノの魔術師”と称されたフランツ・リストのピアノ独奏曲集。「巡礼の年報」とも。「第1年：スイス」「第2年：イタリア」「ヴェネツィアとナポリ」「第3年」の4集からなる

公演情報は18ページをご参照ください。



アンドレア・バッティストーニ指揮

9月定期演奏会

リスト、マーラーとゆく 地獄の門と天上への道

リストとマーラー——コンサートのプログラムとして何と素晴らしい組み合わせだろうか！この2人の作曲家の生涯はちょうど1世紀にわたる。フランツ・リストは1811年に生まれ、グスタフ・マーラーは1911年にこの世を去った。この100年の間に、今日私たちがコンサートで聴くことのできる音楽の大部分が存在しており、アンドレア・バッティストーニが選んだこの2人は完璧なペアと言えるだろう。彼が選んだ2つの曲は、音楽的素材が互いに補完的であるだけでなく、どちらも伝記作家にとって夢のような生涯を送った作曲家の作品である。

リストに関する、ある本の冒頭はこうだ。「1811年の大彗星の年、地上の星が誕生した。その夜、彗星があまりに明るく燃えたので、地元のジプシーはこれを幸運の前兆とみなし、生まれたばかりの子供のまばゆいばかりの未来を予言した」。また、レナード・バーンスタインはマーラーの音楽をこう評した。「彼はドイツ音楽のあらゆる基本的要素を取り入れ……それらを究極の限界まで追い詰めた。休符を戦慄の沈黙に、弱拍を爆発的な死の一撃の前の準備に、息継ぎをショックの喘ぎや恐怖への予感に、アクセントを巨大な圧力へと変化させたのである。マーラーの行進曲は心臓発作のようであり、彼のコーラルは狂気に陥ったキリスト教世界のようなものである」。

明らかに、2人ともカリスマ的な存在であり、複雑で魅力的で、人を惹きつける力と限りないエネルギーと決意のオーラを放っていた。臆面もない感傷、華やかな名人芸、鮮やかな色彩、個人主義の賛美など、この2人の作曲家の音楽ほどロマン派時代の精神を特徴的に描いているものはない。

興味深いことに、2人とも歌劇場で盛んに指揮をしていたにもかかわらず、自らオペラを作曲することはなかった(リストが14歳で書いた1幕ものの歌劇『ドン・サンシュ』が辛うじて数えられるものの)。両者の音楽には、神々しいものと邪悪なもの、静謐なものと激情的なもの、高貴なものと低俗なもの、荘厳なものと落ち着きのないものが、しばしば同じ作品の中で隣り合わせに存在しているのだ。アンドレア・バッティストーニがこのコンサートのために選んだのは、そんな音楽である。

「ダンテを読んで—ソナタ風幻想曲」あるいは「ダンテ・ソナタ」は、こうした偉大な音楽の画家が作曲した15分間の作品である。リストがダンテの『神曲 地獄篇』の一節を読んで思い浮かべた、目の前に広がる地獄の門、そこで死後の世界を過ごすことを宣告された者たちの魂が受ける苦痛、悲惨さ、恐ろしさを音で表現したものだ。しかし、途中には静かな安息があり、最後にはリストの音楽の中で最も対照的な天上の光景が一瞬現れる。リストは、この「ダンテ・ソナタ」を独奏ピアノのために作曲した。指揮者のアンドレア・バッティストーニは、レスピーギ、ラヴェル、ストコフスキーといった20世紀初頭の作曲家のオーケストレーションに見られるような、まばゆいばかりの色彩感をもってこの作品を編曲している。

マーラーの「交響曲第5番」は、特にその万華鏡のようなオーケストレーションにおいて、どれほど似ていることだろう。マーラーは私たちが地獄の光景を想像することを期待していなかったが、交響曲の第1、2楽章の荒々しく熱っぽい、ほとんど狂気的なパッセージの中に、そうした場所を想像することは、多くの聴衆にとって難しいことではないだろう。対照的なのは、第3楽章の完全に生命を肯定する音楽、第4楽章の至福の間奏曲、第5楽章の勝利の結末である。リストの作品では、悲しみと死の世界が最後まで聴き手に寄り添うが、マーラーの交響曲では、悲しみと死から喜びと生への変容が完結しているのである。

公演情報詳細は18ページをご参照ください。

記事全文はこちらから▶
<https://bit.ly/3BVeDOF>



2年ぶりのオペラ演奏会形式! マエストロ チョン・ミョンフン指揮

ヴェルディ／歌劇『ファルスタッフ』の物語

舞台は英国ヘンリー四世の御代、ウィンザーのとある街。

主人公の老騎士サー・ジョン・ファルスタッフは
若い時から強欲で女が好きで大酒飲み、
彼の行く場所には騒動が絶えません。

ある日、ファルスタッフは酒を飲みながら考えます。
「二人のご婦人に同じ内容のラブレターを送って、
恋の冒険を楽しんだ末にその財産を頂戴してやろう」…

ファルスタッフのあきれた野心を手伝う羽目になった従者たちと、
偽の恋文を受け取った二人の婦人とその友人たちが巻き起こすひと騒動。
最後には皆大笑いで大団円を迎えます。

皆からこてんぱんに貶されても自信たっぷりのファルスタッフと、
全員で「最後に笑う者が本当に笑う」と高らかに歌い上げるラストシーンは
私たちに豊かな人生とは何かを教えてくれるようです。





東京フィル名誉音楽監督
マエストロ チョン・ミョンフンが語る
『ファルスタッフ』

写真 ©上野隆文

「この作品は喜劇です。今回は演奏会形式の上演ですが、喜劇としてお客様に笑っていただける要素を随所に盛り込んで舞台を作りたいと考えています。

たとえば…“太鼓腹”と描写される騎士ファルスタッフの体格や衣裳、物語で重要な小道具となる2通のラブレターやファルスタッフが隠れる洗濯籠、酒びん、鹿のツノなど……。それぞれの人物についての視覚的なイメージも重要です。多くの登場人物が現れるこの作品で、私も舞台の上で何かするかもしれません。『ファルスタッフ』は他のヴェルディ作品と比べれば有名なアリアはほとんどありませんが、それ故に難しく、喜劇と言っても侮ってはならない、とても高尚な作品なのです」



ヴェルディの最高傑作にして最後の喜劇『ファルスタッフ』に、今回初めて取り組むというマエストロ チョン・ミョンフン。今年の11月にはイタリアで最も歴史ある歌劇場のひとつ、ヴェニス・フェニーチェ劇場のシーズンオープニングで演出つきの同演目を指揮する予定です（エイドリアン・ノーブル演出）。10月の公演では、これに先駆けて、世界でいち早く東京フィルとともに『ファルスタッフ』の音楽をお届けすることになります。

2022シーズン 今後の定期演奏会

9月

指揮：アンドレア・バッティストーニ
(東京フィル首席指揮者)

第149回 9月15日(木)19:00
東京オペラシティ コンサートホール

第974回 9月16日(金)19:00
サントリーホール

第975回 9月19日(月・祝)15:00
Bunkamuraオーチャードホール

リスト(バッティストーニ編) /
『巡礼の年』第2年「イタリア」より
ダンテを読んで
マーラー / 交響曲第5番



特設サイト

1回券発売中

10月

指揮：チョン・ミョンフン
(東京フィル名誉音楽監督)

ファルスタッフ：セバスティアン・カターナ
フォード：須藤慎吾 アリーチェ：砂川涼子
フェントン：小堀勇介 ナンネッタ：三宅理恵
カイウス：清水徹太郎 クイックリー：中島郁子
バルドルフォ：大槻孝志 メグ：向野由美子
ピストーラ：加藤宏隆 新国立劇場合唱団

第976回 10月20日(木)19:00
サントリーホール

第150回 10月21日(金)19:00
東京オペラシティ コンサートホール

第977回 10月23日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール

オペラ演奏会形式

ヴェルディ / 歌劇『ファルスタッフ』
全3幕 字幕付原語(イタリア語)上演
原作：ウィリアム・シェイクスピア
『ウィンザーの陽気な女房たち』
台本：アッリーゴ・ボーイト



特設サイト

1回券発売中

チケット料金(税込)

1回券	SS席	S席	A席	B席	C席
定価	¥15,000	¥10,000	¥8,500	¥7,000	¥5,500
東京フィルフレンズ (※定価の10%OFF)	-	¥9,000	¥7,650	¥6,300	¥4,950

問合せ 東京フィルチケットサービス

Tel 03-5353-9522 (10時~18時:土日祝休 /
発売日の土日祝は10時~16時)
URL www.tpo.or.jp/ (24時間受付・座席選択可)

公演詳細は▼



News & Information

【特別演奏会】『第九』特別演奏会 発売迫る！

2022年を締めくくる『第九』特別演奏会の概要が決定いたしました。名匠・尾高忠明とともに、実力派のソリスト歌手陣、新国立劇場合唱団とともにベートーヴェンの至高の名曲をお届けいたします。

日時・会場 12月22日(木)19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール
12月25日(日)15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

出演 指揮：尾高忠明(桂冠指揮者)
ソプラノ：迫田美帆 アルト：中島郁子
テノール：清水徹太郎 バリトン：上江隼人
合唱：新国立劇場合唱団(合唱指揮：河原哲也)

曲目 ベートーヴェン／バレエ音楽『プロメテウスの創造物』序曲 作品43
ベートーヴェン／交響曲第9番 ニ短調『合唱付』作品125

料金(税込・全席指定) S席¥11,000 A席¥8,800 B席¥6,600 C席¥4,400

※C席は12/25公演のみの販売となります。※東京フィルフレンズ会員(年会費無料・随時受付中)様はお電話のお申込みで10%OFFでご購入いただけます。※やむを得ない事情により、出演者・曲目などが変更になる場合がございます。※公演中止の場合を除き、お求めいただいたチケットの払戻・変更等はいたしません。

発売日 最優先(東京フィル賛助会員様、定期会員様) 9/3(土)10:00～ *お電話のみ
優先(東京フィルフレンズ会員様) 9/10(土)10:00～ *お電話のみ
WEB優先(どなたさまも定価の10%OFF) 9/10(土)10:00～9/19(月・祝)23:59
一般発売 9/20(火)10:00～

問合せ 東京フィルチケットサービス 03-5353-9522
(10:00～18:00・土日祝休／9/3(土)、9/10(土)は10:00～16:00営業)
東京フィルWEBチケットサービス <https://www.tpo.or.jp/>
(24時間受付・座席選択可)



2020年の尾高忠明指揮『第九』特別演奏会より ©上野隆文

Photo Reports 2022年7・8月の演奏会より

7月定期演奏会には東京フィル定期初登場・同時に日本デビューを迎えた俊英・出口大地が登場。オール・ハチャトゥリアン・プログラムで、作曲家の母国アルメニアと日本の外交関係樹立30年という節目を祝いました。7月・8月は「午後のコンサート」や「ハートフルコンサート」など親しまれるコンサートが続き、多くのお客様にひとときの涼とともに美しい調べをお届けしました。

写真=上野隆文(7/10)・三浦興一(7/12、8/15)

7月定期演奏会(7/7、10、12)

指揮：出口大地 ヴァイオリン：木嶋真優* コンサートマスター：三浦章宏

ハチャトゥリアン／バレエ音楽『ガイーヌ』より

ハチャトゥリアン／ヴァイオリン協奏曲*

【ソリスト・アンコール】イグデスマン(木嶋真優編)／ファンク・ザ・ストリング(7/10)、コミタス(木嶋真優編)／「クランク」～イグデスマン・ファンタジー(7/12)

ハチャトゥリアン／交響曲第2番『鐘』



オーケストラ・キャラバン飛騨市文化交流センター開館15周年記念(7/18)

指揮：円光寺雅彦 チェロ：山崎伸子

第93回休日の午後のコンサート(7/24)、 第14回休日の午後のコンサート(7/27) 〈夏を踊る〉

指揮とお話：三ツ橋敬子 バンドネオン：小松亮太*
コンサートマスター：近藤薫

シャブリエ／狂詩曲『スペイン』

ガーデ／ジェラシー*

ピアソラ／アディオス・ノニーノ*、リベルタンゴ*

小松亮太／バンドネオンとオーケストラのための習作【世界初演】*

【ソリスト・アンコール】ピアソラ／オブリヴィオン

ビゼー／歌劇『カルメン』第1組曲

ファリャ／バレエ音楽『三角帽子』第2組曲より「粉屋の踊り」～終曲

【オーケストラ・アンコール】ファリャ／バレエ音楽『恋は魔術師』より「火祭りの踊り」



第27回平日の午後のコンサート(8/5)
 〈千夜一夜物語〉
 フェスタサマーミュージザKAWASAKI2022(8/7)

指揮とお話：ダン・エッティンガー(桂冠指揮者)

ヴァイオリン：服部百音*

MC：綿谷エリナ コンサートマスター：三浦章宏

ワーグナー／楽劇『ニュルンベルクのマイスタージン
 ガー』より第1幕への前奏曲

ワックスマン／カルメン・ファンタジー(8/5)*

メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲(8/7)*

【ソリスト・アンコール】パガニーニ／モト・ペルペトゥオ
 (無窮動/常動曲)

リムスキー=コルサコフ／交響組曲『シェエラザード』

【オーケストラ・アンコール】ロッシーニ／歌劇『ウィリア
 ム・テル』序曲より「スイス軍の行進」



桂冠指揮者ダン・エッティンガーが3年ぶりの登場



ソリストは気鋭のヴァイオリニスト服部百音さん。技巧と歌を存分に響かせ、トークでも客席を沸かせました

ハートフルコンサート2022(8/15)

東京芸術劇場 コンサートホール

お話・語り：黒柳徹子

ヴァイオリン：前橋汀子* 指揮：角田鋼亮

コンサートマスター：近藤薫

ドヴォルザーク／スラヴ舞曲第8番

ベートーヴェン／ヴァイオリンと管弦楽のた
 めのロマンス第2番*

サラサーテ／ツイゴイネルワイゼン*

小森昭宏作曲・黒柳徹子の語りとオーケス
 トラによる／音楽物語『窓ぎわのトットちゃん』

[語り・原作：黒柳徹子 構成：黒柳徹子・飯沢 匡]

【アンコール】ジョン・レノン(前田憲男編)

／イマジジン



東京フィル副理事長でもあるユニセフ親善大使・女優の黒柳徹子。「最初は、第二次世界大戦で傷ついた人たちに元気を届けたいと思い始めたコンサートでした」と黒柳。若い人たちにも戦争の悲惨さを知ってほしいと話しました



演奏活動60周年を迎えた前橋汀子さんが美しい音色で名曲を奏でました



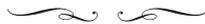
音楽物語「窓ぎわのトットちゃん」では東京フィルメンバーも仮装して活躍(「チンドン屋さん」)

シューベルトを子守歌に、 眠りに誘われて

ユニオンツール株式会社
代表取締役会長
片山 貴雄



東京フィルのゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第12回は、法人賛助会のユニオンツール株式会社 代表取締役会長の片山貴雄様。レコードを通じて音楽に親しんだ幼少期、オーケストラに目覚めた少年期、そしてご家族で音楽家をご支援されるに至る美しい日々を、東京フィルへの温かいお言葉とともに綴っていただきました。



私は小学校入学前の幼い頃は病弱で、夕食が終わり家族の団欒時間になる頃には、床に無理やりつかされるような幼少期を送っていました。暗く電灯が消された寝室で家族のお喋りを聞きながら、父がかかるレコードの音の子守歌代わりにしていました。レコードは時代によって変わりますが、特に印象に残っているのがシューベルトの『冬の旅』です。フィッシャー=ディースカウのバリトンと家族の団欒の声を聞きながら眠りに落ちていきました。余談ながら、叱られた夜は『冬の旅』が『魔王』に変わりました。あらすじはあらかじめ聞いていたので、その怖さから布団を頭から被って眠りにつきました。

私がオーケストラに目覚めたのは小学生の時です。小学校の音楽鑑賞で地区の小学生が区民ホールに招かれてオーケストラの実演を聴いた時です。曲目はビゼーの『アルルの女』でした。メヌエットの美しいフルートの音色に心を奪われました。その感動を家に帰って家族に話すと、翌日にはレコードが

買ってあったのを今でも覚えております。東京フィルでは各地の小中学校で演奏をして頂いておりますが、その効果は何十年後に必ず結果をもたらすことを私は確信しており、このような活動を今後も応援していきたいと思っております。

また、年末恒例の『第九』演奏会は我が家では儀式になっておりました。幼い頃は最初の『歓喜の歌』に聴き入り、その後は眠気に負け、最後の合唱で目を覚ますことの連続でしたが、年齢とともに第2、第3楽章に惹かれていきました。

そして歳月は流れ、父の80歳の誕生日です。お祝いに我が家に父を招待し、当時新進気鋭のピアニストであられた仲道郁代さんに自宅でピアノ演奏をしていただきました。コンサートホールのような広い空間ではなく、狭い居間で聴くグランドピアノは、今にも動き出すのではないかと思うほど迫力のある演奏でした。小さな音符の一つ一つまで聴き漏らすまいと思った私は、その後一日動けなくなる程の衝撃を受けました。仲道郁代さんとはそれ以来後援会長をさせて頂くほどの関係になっております。



私の職業は音楽とは全く関係のないものです。父も、家族もそうでした。しかし、音楽に人生の節目で影響を受け、私の感受性を高めてくれました。私たちの心を豊かにしてくれる音楽に感謝し、東京フィルハーモニー交響楽団の益々の発展をお祈りしております。

片山貴雄(かたやま・たかお)

1953年東京生まれ。1976年東京理科大学工学部学部卒業後、1979(昭和54)年ユニオンツール株式会社入社。1996(平成8)年同社代表取締役社長、2014(平成26)年同社代表取締役会長(現任)。

ユニオンツール株式会社様は、産業用切削工具の製造・販売をする企業です。

「優れた製品を供給し社会に貢献する」という経営理念のもと、電子機器の新たな発展に寄与することで、人々の快適で安全な生活を追及し、「人と技術と地球を結ぶ」企業として社会に貢献されています。URL: <https://uniontool.co.jp>

暑さ去りやらぬ昨今ですが、
 皆様におかれましてはお健やかに過ごしのことと存じます。
 今月は、マエストロと楽団が不朽の名曲をお届けいたします。
 両者が紡ぎ出す音色と共に、優雅な午後のひとときを
 お過ごしいただけますと幸いです。
 引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。
 ここに法人ならびに個人賛助会員（パートナー会員）の皆様のご芳名を掲げ、
 改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

ソニーグループ株式会社	代表執行役 会長 兼 社長 CEO	吉田 憲一郎
楽天グループ株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員（五十音順・敬称略）

(株)IIIH 代表取締役社長 井手 博	(株)インターテキスト 代表取締役 海野 裕	(公財)オリックス宮内財団 代表理事 宮内 義彦
(株)アイエムエス 取締役会長 前野 武史	ANAホールディングス(株) 代表取締役社長 芝田 浩二	カシオ計算機(株) 代表取締役 社長 CEO 樫尾 和宏
(医)相澤内科医院 理事長 相澤 研一	(株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長 松本 浩司	キャノン(株) 代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫
アイ・システム(株) 代表取締役会長 兼 社長 松崎 務	大塚化学(株) 特別相談役 大塚 雄二郎	(株)グリーンハウス 代表取締役社長 田沼 千秋
(株)アシックス 取締役会長 尾山 基	(株)オーディオテクニカ 代表取締役社長 松下 和雄	コスモエネルギーホールディングス(株) 代表取締役社長 社長執行役員 桐山 浩

サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 新浪 剛史

信金中央金庫
理事長 柴田 弘之

新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 加賀美 猛

(株)J.Y.PLANNING
代表取締役 遅澤 准

(株)滋慶
代表取締役社長 田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー
代表取締役社長 金田 直己

菅波楽器(株)
代表取締役社長 菅波 康郎

相互物産(株)
代表取締役会長 小澤 勉

ソニーグループ(株)
代表執行役 会長兼社長 CEO 吉田 憲一郎

ソニー生命保険(株)
代表取締役社長 萩本 友男

(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO 村松 俊亮

(株)大丸松坂屋百貨店
代表取締役社長 澤田 太郎

都築学園グループ
総長 都築 仁子

東急(株)
取締役社長 高橋 和夫

東京オペラシティビル(株)
代表取締役社長 長島 誠

東レ(株)
代表取締役社長 日覺 昭廣

トッパン・フォームズ(株)
代表取締役社長 添田 秀樹

トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 豊田 章男

DOWAホールディングス(株)
代表取締役社長 関口 明

(株)ニチケアパレス
代表取締役社長 秋山 幸男

(株)ニフコ
代表取締役会長 山本 利行

日本ライフライン(株)
代表取締役社長 鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル
代表取締役 新井 秀之

富士電機(株)
代表取締役会長 CEO 北澤 通宏

(株)不二家
代表取締役社長 河村 宣行

(株)三井住友銀行
頭取CEO 高島 誠

三菱地所(株)
執行役社長 吉田 淳一

三菱倉庫(株)
相談役 宮崎 毅

(株)三菱UFJ銀行
特別顧問 小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)
代表取締役 田中 めぐみ

(株)明治
代表取締役社長 松田 克也

森ビル(株)
代表取締役社長 辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)
代表取締役社長 長尾 裕

(株)山野楽器
代表取締役社長 山野 政彦

ユニオンツール(株)
代表取締役会長 片山 貴雄

(医)ユベンシア
理事長 今西 宏明

楽天グループ(株)
代表取締役会長兼社長 三木谷 浩史

(株)リソー教育
取締役会長 岩佐 実次

後援会員

(株)アグレックス
代表取締役社長 畝森 達朗

(医)エレル たにぐちファミリークリニック
理事長 谷口 聡

欧文印刷(株)
代表取締役社長 和田 美佐雄

(有)オルテンシア
代表取締役 雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院
理事長 加藤 徹

(医)だて内科クリニック
理事長 伊達 太郎

(宗)東京大仏・乗蓮寺
代表役員 若林 隆壽

(一社)凸版印刷三幸会
代表理事 金子 眞吾

(株)トレミール
代表取締役 茶谷 幸司

(株)日税ビジネスサービス
代表取締役会長兼社長 吉田 雅俊

富士通(株)
代表取締役社長 時田 隆仁

本田技研工業(株)
取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

三菱電機(株)
執行役社長 漆間 啓

ご支援の御礼とお願い

コロナ禍において、皆様からたくさんの方の励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は今も社会に大きな影響を及ぼしています。東京フィルもまた、深刻な打撃を受けています。2020年2月下旬から数か月にわたり、出演する演奏会のすべてが中止・延期となりました。その後も感染状況により公演の中止や延期、チケットの販売停止を余儀なくされております。東京フィルの財源は演奏料収入がほとんどを占めるため、演奏会およびチケット収入の壊滅は団体存続の危機に直結いたします。指揮者と楽団員、スタッフはPCR検査や抗原検査を何度も受けて公演に臨んでおり、これらの検査に掛かる費用もまた楽団の財政を圧迫しています。

今後も、当団は、芸術がもたらす感動がどんな時代にも社会を豊かにするとの信念のもと、お客様ならびに関係者の安全と安心を最優先に、状況を注視しながら活動を続けてまいります。皆様のご寄附が大きな力となります。皆様におかれましては、改めて楽団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、いっそうのご支援・ご助力を賜りますようお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただけますと幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会（次ページ）も併せてご覧ください。

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行（郵便振替）	00120-2-30370	公益財団法人
三井住友銀行・ 東京公務部（096）	普通預金 3003239	東京フィルハーモニー 交響楽団

※ ご寄附の金額は自由に設定いただけます。

※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※ 領収証書が必要な方は、お手数ですがお振込後に、別途配布しております「寄附申込書」に必要な事項をご記入の上、下記へご送付ください。

寄附申込書はこちらからも取得いただけます。

https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf



【ご支援のお問合せ／寄附申込書 送付先】

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
Fax 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel 03-5353-9521（土日祝日を除く10時～18時）

東京フィル 賛助会 会員募集中

2022年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立111年を迎えました。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、東京フィルは社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

賛助会（法人／パートナー（個人））会員の種別

種別	年会費1口	
オフィシャル・サプライヤー	詳細はお問い合わせください。	
法人会員	賛助会員	50万円
	後援会員	30万円
パートナー会員	ワンハンドレッドクラブ	100万円
	フィルハーモニー	50万円
	シンフォニー	30万円
	コンチェルト	10万円
	ラブノディ	5万円
	インテルメッツォ	3万円
	プレリユード	1万円

※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「主催者カウンター」または東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部（担当：星野^{のぼた}鹿文）

電話：03-5353-9521（平日10時～18時） Eメール：partner@tpo.or.jp

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「文化芸術による子供育成推進事業 巡回公演事業」

文化庁が主催する本事業は、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、さらに2019年度からは、これに加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。



小学校体育館でのオーケストラ本公演

令和4年度からは、「文化芸術による子供育成推進事業」と事業名が変更となり、東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受けました。今年度は5月から12月にかけて、小中学校14校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催します。

留学生の演奏会ご招待… 留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお問合せください。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンファン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文

演奏会場の感染対策について

演奏会の開催にあたり、リハーサルから本番に至るまで、お客様、出演者、スタッフ等、すべての関係者の安全と健康を最優先に、日本国政府・東京都および関係団体から発表された新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドラインに従い、舞台上・舞台裏・楽屋・客席ロビーなどにおける対策を講じております。引き続きの感染症予防のご協力をお願い申し上げます。

写真＝三浦興一／上野隆文

客席・ロビーの対策について



入場前の手指消毒、常時マスク着用、間をあけて整列をお願いいたします



入場の際に、サーモグラフィカメラ等での検温を行っています



密集を避けるため、時間差による入退場のご協力をお願いする場合がございます

ご来場者様の中から感染者が発生した場合には、保健所等の公的機関と連携の上、ご購入の際に取得した購入者情報を緊急連絡先として使用させていただく場合がございます。チケットご購入者をご来場者が異なり、購入者情報を緊急連絡先として望まない場合は、必ずチケット半券裏面の余白にご来場者様のお名前と緊急連絡先(電話番号など)のご記入をお願いいたします。



Face Masks Required



Physical Distancing



Sanitizing Stations



Frequent Cleaning and Disinfecting



Improved Indoor Ventilation

会場では常時マスクの着用をお願いいたします。

ロビーや客席内での会話はお控えください。

ロビー等ではお客様同士の間隔を十分におとりください。

頻回の手指消毒をお願いいたします。

場内はスタッフが消毒・清拭を行っております。

客席内は十分な換気を行っております。

時差入退場にご協力ください。

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ミョンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

アシソエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宜
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

栃本 三津子
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hiroosawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

戸上 真里◎
Mari Togami

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水島 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

佐藤 実江子
Mieko Sato

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

本堂 祐香
Yuuka Hondo

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴィオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michiyo Suto

高平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔◎
Daisuke Kato

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	五箇 正明◎ Masaaki Goka	梶 彩乃 Ayano Kaji
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	加瀬 孝宏◎ Takahiro Kase	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	遠藤 柁一郎 Shuichiro Endo	佐竹 正史◎ Masashi Satake	磯部 保彦 Yasuhiko Isobe	辻 姫子○ Himeko Tsuji	ライブラリアン Librarians
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	小笠原 茅乃 Kayano Ogasawara	杉本 真木 Maki Sugimoto	大東 周 Shu Ohigashi	石川 浩 Hiroschi Ishikawa	武田 基樹 Motoki Takeda
高麗 正史☆ Masashi Korai	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	木村 俊介 Shunsuke Kimura	岩倉 宗二郎 Sojiro Iwakura	ステージマネージャー Stage Managers
広田 勇樹☆ Yuki Hirota	小栗 亮太 Ryota Oguri	クラリネット Clarinets	田場 英子 Eiko Taba	平田 慎 Shin Hirata	稲岡 宏司 Hiroshi Inaoka
石川 剛 Go Ishikawa	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	チヨ・スンホ◎ Sung-ho Cho	塚田 聡 Satoshi Tsukada	山内 正博 Masahiro Yamauchi	大田 淳志 Atsushi Ota
大内 麻央 Mao Ouchi	菅原 政彦 Masahiko Sugawara	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	豊田 万紀 Maki Toyoda	デュエバ Tubas	古谷 寛 Hiroshi Furuya
太田 徹 Tetsu Ota	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	万行 千秋◎ Chiaki Mangyo	山内 研自 Kenji Yamanouchi	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	
菊池 武英 Takehide Kikuchi	中村 元優 Motomasa Nakamura	黒尾 文恵 Fumie Kuroo	山本 友宏 Tomohiro Yamamoto	萩野 晋 Shin Ogino	
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki	フルート Flutes	林 直樹 Naoki Hayashi	トランペット Trumpets		
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa	神田 勇哉◎ Yuya Kanda	ファゴット Bassoons	川田 修一◎ Shuichi Kawata	ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	野田 亮◎ Ryo Noda	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	吉岡 アカリ◎ Akari Yoshioka	廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi	井村 裕美 Hiromi Imura	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	木村 達志 Tatsushi Kimura	
	下払 桐子 Kiriko Shimobarai	桔川 由美 Yumi Kikkawa	前田 寛人 Hirohito Maeda	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
		森 純一 Junichi Mori		縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
				船迫 優子 Yuko Funasako	
				古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆フオアシュピラー
Vorspieler

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』『NHK紅白歌合戦』などの放送演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2022, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 111th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>    



©上野隆文

役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	海老澤 敏
副理事長	大塚 雄二郎		佐治 信忠
黒柳 徹子	小山田 隆		鈴木 勲
専務理事	篠澤 恭助		鈴木 啓介
石丸 恭一	田沼 千秋		瀬谷 博道
	寺田 琢		日枝 久
常務理事	遠山 敦子		南 直哉
工藤 真実	野本 弘文		
	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務 経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志		鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	大和田 皓	河野 啓子	清水 真佐子	長池 陽次郎	古野 淳
池田 敏美	岡部 純	近藤 勉	瀬尾 勝保	長岡 慎	細川 克己
糸井 正博	小樽 敦子	今野 芳雄	高岩 紀子	長倉 穰司	細洞 寛
今井 彰	小山 智子	齊藤 匠	高野 和彦	新田 清枝	本田 詩子
井料 和彦	甲斐沢 俊昭	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	松澤 久美子
岩崎 龍彦	加藤 明広	嵯峨 正雄	竹林 良	二宮 純	湊 貞男
植木 佳奈	加藤 博文	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	野仲 啓之助	宮原 真弓
上野 眞行	金崎 真由美	桜木 弘子	田中 千枝	畑中 和子	山屋 房子
生方 正好	川人 洋二	笹 翠	田村 武雄	玻名城 昌子	吉田 啓義
大兼久 輝宴	木村 友博	佐々木 等	津田 好美	福村 忠雄	米倉 浩喜
大澤 昌生	黒川 正三	佐野 恭一	戸坂 恭毅	藤原 勲	脇屋 俊介

〈発行日〉 2022(令和4)年9月2日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉 東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel. 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉県市 提携: 千葉県市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉 米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉 歌文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)



TOKYO PHILHARMONIC

Afternoon Concerts 2022 season